

第3回日南町中心地域整備検討委員会 次第

と き：令和7年10月28日（火）
午後2時30分～午後5時
ところ：日南町役場 交流ホール

1 開 会

2 挨拶（日置委員長）

3 委員会の再開について経過説明（資料 1）

4 諮問取下げ（資料 2）

5 諮 問（資料 3）

6 委員委嘱

7 議 事

（1）中心地域整備の方向性について（資料 4）

（2）今後の検討の進め方について（資料 5）

（3）その他

8 閉 会

資料一覧

- （資料1） 日南町中心地域整備検討委員会 再開にあたっての経過説明
- （資料2） 諮問の取り下げ
- （資料3） 再諮問
- （資料4） 日南町中心地域整備の方向性
- （資料5） 日南町中心地域整備の今後の進め方

【資料 1】

日南町中心地域整備検討委員会 再開にあたっての経過説明

1. 委員会の経過

(1) 委員会の設置と当初の検討

令和 5 年度：日南病院あり方検討委員会を設置し、新病院建設について議論

令和 6 年 3 月 12 日：「日南病院新病院基本構想」が答申される

令和 6 年 4 月：日南町中心地域整備検討委員会を設置

第 1 回（4 月）、第 2 回（7 月）委員会を開催

新病院建設と中心地域整備を一体的に検討

(2) 委員会の延期決定（令和 6 年 9 月 30 日）

延期の理由：

新日南病院基本計画がいまだ途中段階

新病院の医療サービス及び建設の内容について未定な部分が多数残存

新病院の計画は中心地域の整備と密接不可分

新病院基本計画が固まっていない状況では、中心地域整備の議論を詰めることが

困難

委員の皆様にご議論していただく内容に手戻りが生じる恐れ

対応:

日南町及び日南病院において、町民の皆様と新病院についての議論を最優先

新日南病院基本計画(案)の策定を進めることを決定

2. 日南病院建設「延期」の決定

(令和7年9月住宅政策及び中心地整備調査特別委員会で報告)

(1) 基本的な考え方

必要性の認識:

救急対応を備えた、45～50床規模の病院が必要

多くの町民の皆様からのご意見を踏まえた判断

延期の判断:

建設費高騰に伴う町財政への影響

国の医療政策の動向

人材確保を含む将来の広域医療の在り方に関する懸念

これらを慎重かつ総合的に判断した結果、一旦立ち止まり延期することを決定

【資料 1 別紙】



「最後の砦」、日南病院 を守るために

地域医療の未来を見据えた重要な決断について、町民の皆様にご報告いたします。

令和7年10月28日 第3回日南町中心地域整備検討委員会 ¹

基本的な考え方

救急対応を備えた、45～50床規模の病院が必要

令和6年3月12日に答申された「日南病院新病院基本構想」並びに、多くの町民の皆様から頂戴したご意見等を踏まえ、「本町には医療機関が必要であり、救急対応を備え、病床規模は45～50床が望ましい」という考えを持っています。

今は「延期」することが、最善の選択と判断

一方で、建設費高騰に伴う町財政への影響のほか、国の医療政策の動向、人材確保を含む将来の広域医療の在り方に関して懸念点も多く、これらを慎重かつ総合的に判断した結果、病院建設は、一旦立ち止まり延期することといたしました。



最終判断について

▶ 建設延期の決定

病院建設は延期し、当分の間、現日南病院の長寿命化を図ります。

▶ 新たな議論の開始

本年10月中には、日野郡3町と郡内の医療機関及び鳥取県等の関係者で日野郡全体の医療・福祉の在り方について議論を開始します。

▶ 改めての判断

2027年度中を目途に、日南病院建設について改めて判断いたします。

なお、「歯科」については、2029年までに日南病院の直営診療所体制とする方向で検討していきます。

～なぜ立ち止まるのか～

要因① 広域医療体制における位置付けの再検討

今から20年後には日野郡全体の人口が半減すると見込まれる中、国の動向等を踏まえつつ、医療人材の確保を含め、日野郡の医療・福祉の在り方を抜本的に検討する必要があります。



孝田院長（日野病院）

「将来、医師を含め医療人材の確保が困難となる。
日野郡全体で人事交流などの取組が必要。」



武地所長（江尾診療所）

「日野病院・日南病院それぞれの特色を出し、機能分化を
図っていくことが必要。」



塔田町長（日野町）

「地域を越えて、人材確保を含めた医療・福祉の質や、
提供サービスの維持の検討が必要。」



白石町長（江府町）

「日野郡全体の医療、介護を含めた調整が、急ぎ必要。」

サテライト機能、医師派遣



鳥取大学医学部附属病院

20年後人口は半減することを踏まえ、
広域医療体制の抜本的見直しが必須



江府診療所



日南病院



日野病院

役割・機能分化、医療・介護連携

鳥取大学医学部附属病院は、2029年度中に新病院と湊山公園の一部を活用した再整備を予定しており、日野郡の医師確保は当該病院に大きく依存しているため、その動向を踏まえた必要な検討・調整が求められます。

～なぜ立ち止まるのか～

要因② 医療政策の過渡期における対応

現在、国では2040年頃の高齢化のピークを見据え、新たな「地域医療構想」の検討が進められており、2026年度から各都道府県で策定作業が本格化する見通しです。



01

病床削減の動き

2025年6月、自民・公明・日本維新の会の3党は、2027年までに全国で約11万床の病床を削減することに合意し、「骨太方針2025」にも病床削減が明記されました。

02

診療報酬改正の影響

日本の病院の約6～7割、自治体病院では約9割が赤字経営に陥っている現状を踏まえ、2026年診療報酬改正の行方を慎重に見極める必要があります。

03

段階的対応の必要性

本町唯一の医療機関である「日南病院」を守り、安定的に維持していくため、当面は病床数を確保しつつ情勢を注視し、適切なタイミングで段階的なダウンサイジングを図ることが賢明と考えます。

～なぜ立ち止まるのか～

要因③ 財政への影響と懸念

新病院の建設費高騰が見込まれ、町財政や町民生活への影響が深刻に懸念されることが、判断の大きな要因となっています。

予算との乖離

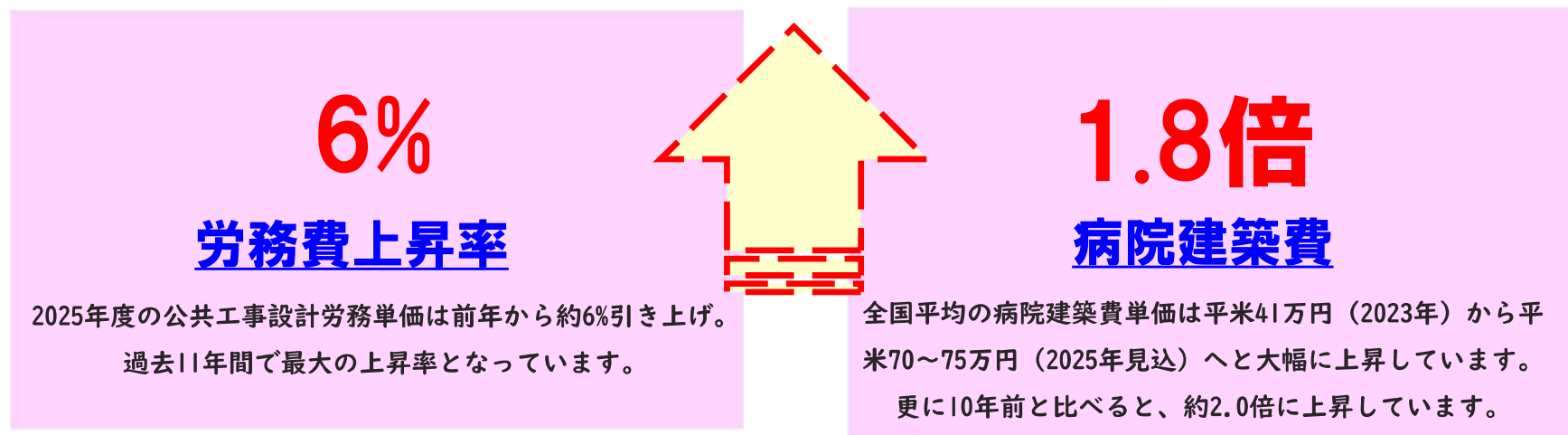
健全な町財政を堅持するため、新病院建設に充てられる予算は当初約30億円と試算していました。しかし、45～50床の病院には約50億円が必要で、他事業の縮小や廃止、新たな政策投資の実施が困難になる可能性があります。

将来的な負担増

建築資材費や労務費等の高騰が続いており、5年後（令和12年）には更なる物価上昇が見込まれます。仮に建設費が増加した場合、病院以外の事業からその増加分を捻出することとなり、町財政の圧迫や地域サービスの低下を招く恐れがあります。



建設費高騰の実態



●全国の医療機関における建設中止事例

- ▶ 国際先進医療センター（埼玉県）：2015～2024年の9年間で2.6倍（840億円→2,186億円）
- ▶ 多摩永山病院（東京都）：2020～2023年の3年間で1.8倍（154億円→280億円）

慢性的な人手不足、働き方改革による労働時間の制限等により、今後も労務費の上昇圧力は継続すると見込まれています。

将来に向けた財源を積み立てる

▶新たな積み立て開始

今後の物価高騰を踏まえると、将来の病院建設費は現在の試算額をさらに上回る可能性が高いと推察されます。このことから、将来の費用増に備え、令和8年度から新たな財源積み立てを行っていきたいと考えています。

▶積立金の管理等

新たな積み立ては、当分の間、既存基金の中で整理・管理したいと考えています。実際に新病院建設の計画が進展し、現実味を帯びてきた段階で、新たな基金創設を検討していきます。

▶予算編成で議論

積立金の金額については、令和8年度当初予算編成において議論し決定します。



持続可能な未来への「備え」

中心地域整備計画を進展させる

▶ 中心地域整備計画の議論を再開

中心地域整備計画の検討については、本町の地方創生の取組が遅れる懸念があることから病院議論とは切り離し、本年10月にも再開したいと考えています。



現在、休会している「日南町中心地域整備検討委員会」

▶ 2つの病院建設候補地は、一旦白紙に

現在、新病院の建設候補地として挙がっている2か所（道の駅裏手、文化センター隣駐車場）については、一旦白紙に戻します。

今後の検討において、最適な立地を改めて慎重に検討していきます。



新病院の建設候補地は、一旦白紙に

町民の皆様へ

町長として、皆様の命と健康を守るという私の信念は、決して揺らぐことはありません。これまで300人を超える町民の皆様と直接お話をさせていただく中で、私は「早く建て替えてほしい」「安心して通える病院にしてほしい」という切実な願いを何度も耳にしました。同時に、「本当に今、建て替えを進めるべきなのか」「町の財政は大丈夫なのか」といった、皆様の不安や懸念の声も真摯に受け止めてきました。

病院関係者や近隣の首長との意見交換を重ねるたびに、私の心には一つの強い思いが固まっていきました。それは、「日南町には、救急・入院・在宅対応を備えた45～50床規模の病院が必要だ」ということです。

しかし、その一方で、現実を冷静に見つめることも、町長としての責務です。建設費の高騰、国の医療政策の変化、そして将来的な広域医療体制の構築を巡る不確実な情勢など、私たちが直面している課題は山積しています。

今回の「延期」という決断は、決して簡単なものではありませんでした。しかし、町の医療を次の世代へと確実につなぐため、そして何よりも町民の皆様の命と健康を守るために、今、最善の選択であると確信しています。

日南病院は、日南町にとって「最後の砦」です。この大切な砦を守り、より良い医療環境へと進化させるため、私は全力で取り組んでいくことをお約束します。町民、病院、行政が心を一つにし、手を取り合って、未来の地域医療を共に築いていきましょう。

引き続き、皆様のご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

日南町長 中村英明

【資料 2】

第 号
令和 7 年 1 0 月 2 8 日

日南町中心地域整備検討委員会
委員長 日置 佳之 様

日南町長 中村 英明

諮問の取り下げについて（通知）（案）

令和 6 年 7 月 13 日付け第 601995 号により諮問いたしました『日南町中心地域整備計画の策定に係る方針について』の件につきまして、下記の理由により諮問を取り下げます。

記

1 取下げ対象諮問

件 名：日南町中心地域整備計画の策定に係る方針について

諮問日：令和 6 年 7 月 13 日

文書番号：第 601995 号

2 取り下げ理由

当該計画の中核事業として位置づけておりました新日南病院建設につきまして、建設資材の高騰、町財政への影響、将来的な医療需要の見通し等を総合的に勘案した結果、病院建設は延期され、今後 2 年間をかけて改めて 方向性を検討することとなりました。

これにより、諮問時の前提条件が根本的に変更されたため、現行の諮問内容に基づく審議継続は適切ではないと判断し、諮問を取り下げることにいたします。

3 今後の対応

病院建設計画とは切り離れた形で、日南町の持続的発展に向けた新たな中心地域整備計画について、改めて諮問させていただきます。

【資料 3】

第 号
令和 7 年 1 0 月 2 8 日

日南町中心地域整備検討委員会
委員長 日置 佳之 様

日南町長 中村 英明

日南町中心地域整備計画の策定に係る方針について（諮問）（案）

このことについて、日南町中心地域整備検討委員会設置要綱の規定により、下記のとおり貴委員会に諮問します。

記

1 諮問事項

1. 日南町中心地域整備計画の策定に関すること
2. その他必要な事項

（諮問趣旨）

新日南病院建設については今後 2 年間で方向性を検討することとなりましたが、町の停滞を避けるため、現実的かつ実効性のある中心地域整備を着実に進めることが重要です。

人口減少が進む中であっても「持続可能なまち」であり続けるため、地方創生 2.0 が掲げる「若者と女性に選ばれる地方づくり」の実現やコンパクト・プラス・ネットワークを踏まえたまちづくりの実現にむけて、現実的かつ段階的な中心地域整備計画を策定する必要があることから、ご意見を賜りたく諮問するものです。

【資料 4】

日南町中心地域整備の方向性（案）

1. 趣旨

人口減にあっても「持続可能なまち」であり続けるため、本町がこれまで進めてきた「コンパクト・ヴィレッジ構想」をさらに進化させ、新たな中心地域整備計画の策定に向けた協議等を行う。

2. 新たな方針

新日南病院の建設にかかる事項が2年間延期になったことに伴い、過去2回委員会で議論してきた新日南病院を中心とする中心地域整備計画から新たな中心地域整備計画を策定していくことにしました



人口減少が進む中にあっても「持続可能なまち」であり続けるため、地方創生2.0が掲げる「若者と女性に選ばれる地方づくり」の実現やコンパクト・プラス・ネットワークを踏まえたまちづくりの実現において、現実的かつ段階的な中心地域整備計画を策定する

3. 日南町中心地域整備の方向性（案）

『ごちゃまぜの中心地域が
にぎわいとみんなのwell-being（健康と幸せ）をつくる』

買い物・医療・教育・子育て・文化・交流・住宅・移住などの生活機能を生山・霞に集約し世代や目的がごちゃまぜに交わることで、にぎわいを生みだします。生活機能は中心地域で完結し、多様な利用者に安心してご利用いただける環境を整備します。また、地域と中心地域を新たな公共交通で結ぶことで、通学や通院、買い物をスムーズにします。この「ごちゃまぜの中心地域」により、移動の負担を減らし、誰もが訪れたくなる日常の広場を形成します。結果として、地域のにぎわいの創出と、町民のwell-beingの向上につながります。

※ごちゃまぜとは・・・明治大学小田切教授がR6.4基調講演内で表現された言葉で、地域の中にあえてごちゃまぜの場を作ることで新しい価値が生まれ、地域活動や組織の持続性が保たれることについてお話していただきました。

■中心地域の現状

日南町は、人口減少や高齢化、産業・商業の衰退、公共・公益的施設の老朽化等の問題を抱えているが、中心地域に生活に必要な施設を集約する「コンパクト・ヴィレッジ構想」をはじめ、移住・定住や町内交通施策を推進してきた。

■中心地域の課題

中心地域では、近年の予測不能な社会環境に適応しながらコンパクト・ヴィレッジ構想の進化を図り、公共施設等の再整備や集約化に加え、交通利便性、暮らしの安全性、生活利便性等の向上を図るとともに、地域内外が交流するにぎわいの創出が求められる。

■計画の方向性

テーマ 『ごちゃまぜな中心地域が、にぎわいとみんなのwellbeingをつくる』

予測不能な時代に対応するため、中心地域に機能を集約し、柔軟性、多様性、多機能性、創造性、寛容性、持続可能性のあるまちづくりを推進する。

方向性・若者が活躍し、子供の笑顔と地域内外の交流がにぎわいを生む

- ・若者のしごとをつくり、多世代の交流により、暮らしや文化を次世代へつなぐ
- ・安心で便利な生活環境をつくり、町でのくらしを支える

地区別計画

地区		テーマ・概要	主な施策
霞地区	霞	まちを導く操業指南役“中心地域の羅針盤” 行政や文化活動、買い物等の生活機能の集積を活かし、町の便利な生活の拠点や指針となる中枢機能エリア	行政サービスの充実、文化センターの利用促進、住宅整備、バス待合所整備、歩行空間の整備、等
	北の原	町を担うみらい発掘拠点“才能開花ビレッジ” 教育や子育て、スポレク機能の集積を活かし、教育に加え、多世代交流や健康を促進する町の未来を担う人材の育成エリア	安全な通学路の整備、イチイ荘改修と山遊び場整備、健康増進施設の検討、住宅の検討、等
生山地区	大田原	中心地域の新たな右腕“にぎわいのるつぼ” 道の駅や広い低未利用地を活かし、地域内外から幅広く人を呼び、さらなる交流を促すにぎわいのエリア	公園整備、道の駅機能強化、住宅整備、土砂災害対策、子育て支援センターの活用検討、等
	生山	コンパクトゲートタウン“散策型エンタメスポット” 旧中心地域である立地や、行動起終点になる生山駅を活かし、歩いて楽しめるコンパクトに完結したにぎわいのエリア	役場跡地の活用整備、拠点施設整備、宅地区画整備、ウォーキングルート整備、立ち寄りスポット整備、健康食の提供、等

■今後の予定

国の補助や民間活力を活用しながら施策を推進する一方で、地域活動も支援し、10年後を目標に掲げて、短期・長期で取り組んでいく。

コンパクト・ヴィレッジ構想2.0 テーマ（案）

『ごちゃまぜな中心地域が、
にぎわいとみんなのwellbeingをつくる』

大田原地区

中心地域の新たな右腕
“にぎわいのるつぼ”

道の駅や広い低未利用地を活かし、
地域内外から幅広く人を呼び、さらなる交流を促す
にぎわいのエリア

大田原地区

生山地区

生山地区

コンパクトゲートタウン
“散策型エンタメスポット”

旧中心地域である立地や、行動
起終点になる生山駅を活かし、
歩いて楽しめるコンパクトに完
結したにぎわいのエリア

北の原地区

北の原地区

町を担うみらい発掘拠点
“才能開花ビレッジ”

教育や子育て、スポレク機能の
集積を活かし、教育に加え、多
世代交流や健康を促進する町の
未来を担う人材の育成エリア

霞地区

霞地区

まちを導く操業指南役
“中心地域の羅針盤”

行政や文化活動、買い物等の生活機能の集積
を活かし、町の便利な
生活の拠点や指針となる
中枢機能エリア

至庄原

至米子

中心地域整備計画（案）

凡例

ハード施策

ソフト施策

安全な歩行空間



飲食店



駐車場



公衆トイレ



宿泊施設



案内



美術館



バス待合所イメージ

住宅の整備
(高齢者、若者、単身者、移住者向け)

住宅エリア

地域内交通の拠点化に向けた
バス待合所の整備

公営住宅

安全な子供の移動経路となる歩行空間の整備

北の原橋

商業施設エリア

ショッピングセンター

子育てエリア

総合文化センター

デイサービスかすみ荘

なごみの里

都市施設エリア

文化センターの利用促進
(体験メニューの提供、学習塾の誘致、等)

文化センター活用イメージ



行政サービスの充実
(観光案内人)

役場イメージ



芝生広場と一体となった
公園と川遊び場の整備

川遊び場イメージ



まちを導く操業指南役
“中心地域の羅針盤”

行政や文化活動、買い物等の生活機能の集積を活かし、町の便利な生活の拠点や指針となる
中枢機能エリア

中心地域整備計画（案）
霞地区

縮尺：1/2,129

60m

至 庄原

安全な通学路イメージ

井谷路
ワンポイント
一幅
北の原橋
ショッピングセンター

スポレク
健康増進
エリア

プール

既存体育館やプールを活用した健康増進施設の検討

教育施設
エリア

教育施設の集約化に向けた検討

中学校等の教育施設の整備

日南中学校

お試し住宅

目南こども園

宿泊・
自然体験
エリア

イチイ荘

イチイ荘の改修と 自然体験できる山遊び場の整備

かすみ荘やなごみの里を活用した 住宅の検討

デイサービスかすみ荘

なごみの里


福祉施設
エリア

総合文化センター

至 庄原

縮尺: 1/2, 404

70m



日南町役場

山遊び場イメージ

町を担うみらい発掘拠点
“才能開花ビレッジ”

教育や子育て、スポレク機能の集積を活かし、教育に加え、多世代交流や健康を促進する町の未来を担う人材の育成エリア

中心地域整備計画（案） 北の原地区

凡例

ハード施策

ソフト施策

●●●● 安全な歩行空間



飲食店



駐車場

案内

公園イメージ
(山口きらら博記念公園HPより)大型公園の整備
(芝生広場、大型遊具、
ドッグラン、駐車場、等)安全性向上のための
大田原井出の改修整備安全性向上のための
土砂災害（急傾斜）
対策

憩いスペースイメージ

道の駅の機能強化
(憩いとくつろぎの場の整備)道の駅の機能強化
(イベント開催、特産品の
開発・販売、体験メニュー
の提供、レンタサイクル、
観光案内人の養成、等)

道の駅イベントイメージ

短期コア
エリア
(公園)短期コア
エリア
(道の駅)住宅
エリア

消防署の整備

江府消防署生山出張所

道の駅 にちなん日野川の郷

グループホームあさひの郷

子育て支援センター

子育て支援センターの
活用検討
(多世代交流の場、カフェ、
高齢者住宅、等)

子育て支援センター活用イメージ

ホームセンター

商業施設
エリア福祉施設
エリア

日野川



バス停

岡田石油店生山SS

日南町総合運動公園

縮尺：1/2,170

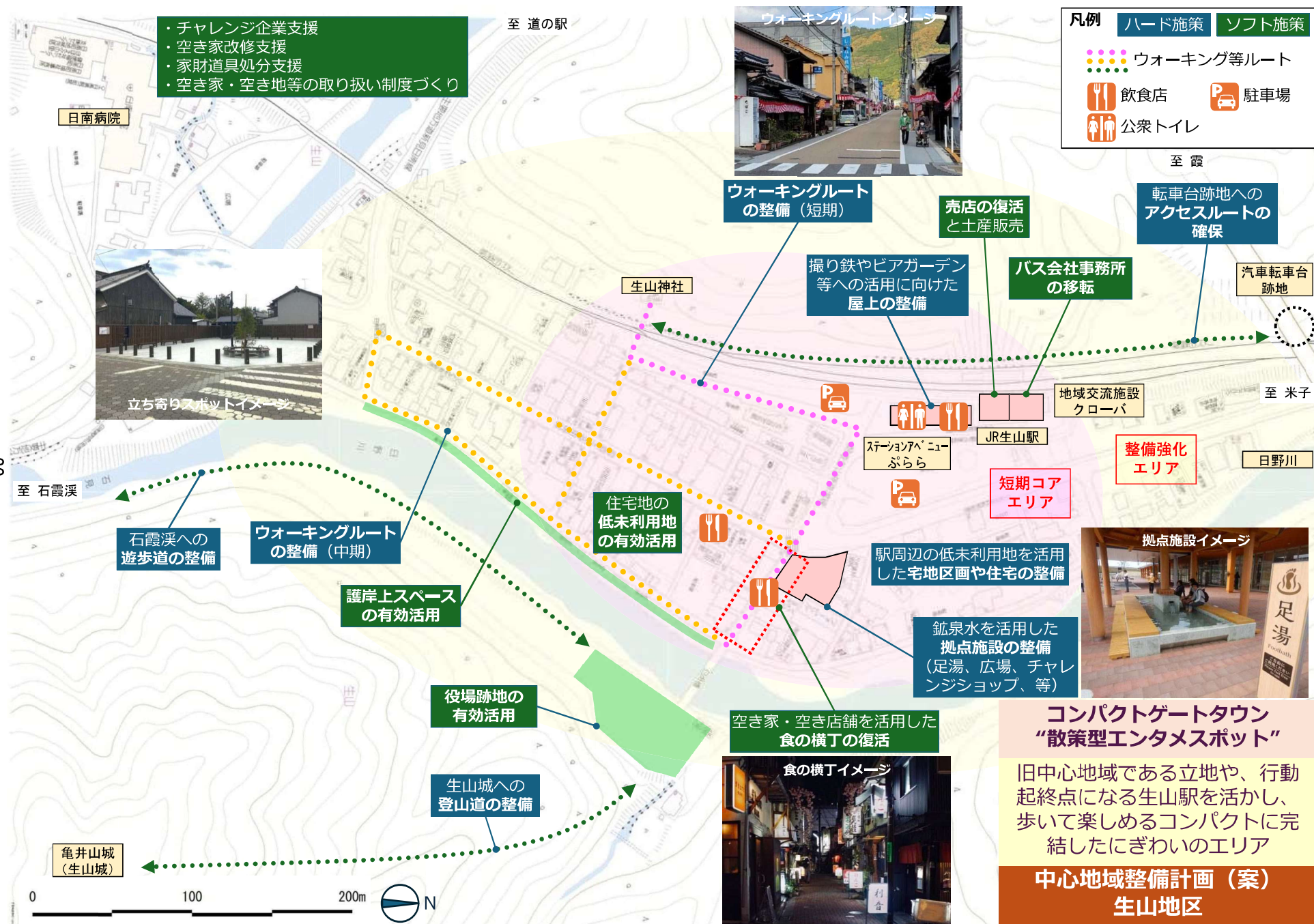
60m

至 日南町役場



至 生山駅

中心地域の新たな右腕
“にぎわいのるつぽ”道の駅や広い低未利用地を活か
し、地域内外から幅広く人を呼
び、さらなる交流を促す
にぎわいのエリア中心地域整備計画（案）
大田原地区



コンパクト・ヴィレッジ（小さな拠点）取組事例（1）

■京都府南丹市 <人口29,327人 面積616km²>（美山町人口3,216人 面積340km²人）

○エリア地図



○取組概要 <生活機能の集約、既存施設を活用した生活拠点づくり>

- ・南丹市は、美山町（340km² 3,216人（R7.3））を含む4町とH18に合併して誕生。
- ・H12のJA支店の店舗閉鎖を受け、過疎債による店舗改修、住民出資による会社設立等を踏まえ「ふらっと美山」としてオープン。日用品や農産物等を販売し、雇用も創出。
- ・敷地内の牛乳加工場では、6次産業化や地域内資源の循環等にも寄与。地元の食品加工グループによる惣菜等も揃え、住民生活に密着した生活拠点となっている。
- ・H17に既存施設を活用した道の駅「美山ふれあい広場」として登録、H28に「住民サービス部門モデル道の駅」に認定。
- ・敷地内の「美山ふるさと（株）」は、不動産を扱い、移住や古民家の仲介も担う。市が嘱託職員を配置している「平屋振興会」では、行政窓口として住民票や証明書の発行、保険・医療、年金などの行政手続きも可能とし、公民館活動の事務局も担う。
- ・福祉面では「高齢者コミュニティセンター」、「保健センター」があり、サークル活動やミニデイサービス、乳幼児健診等の検診や子育て相談等もある。
- ・医療面では、H11に公設民営「美山診療所」を開設。
- ・観光面では、H28に設立した「（一社）観光まちづくり協会」に窓口を一元化。
- ・そのほか、郵便局、JAのATM、レストラン、漁協等が周辺に存在し、生活機能を集約。
- ・地域内交通は、H23からデマンドバスを運行するほか、社会福祉協議会による過疎地有償運送、診療所による無料送迎等、種々の交通ネットワークがある。



※出典：H28地域活性化ガイドブック～小さな拠点＋ネットワークによる地域活性化～（一社）地域活性化センター

コンパクト・ヴィレッジ（小さな拠点）取組事例（2）

■宮城県七ヶ宿町 <人口1,172人 面積263km²>

○エリア地図（GoogleMap）



○取組概要 <移住定住の推進、新たなにぎわい拠点の創出>

- ・町独自施策として、高校までの医療費、保育料・給食費の無料化等の子育て支援の充実、就農者への助成、事業所開業・拡大への支援等を実施。
- ・「地域担い手づくり支援住宅」では、当該住宅に20年住めば土地建物を無償譲渡され、Uターンによる移住者の増加や、保育所のこども増加（H28で前年比6人増）に寄与。
- ・H28には第三セクターとして、移住定住に関する事業を行う「（株）七ヶ宿暮らし研究所」と、にぎわい創出や経済活性化を目的に「七ヶ宿まちづくり（株）」の2法人を立ち上げ。
- ・2法人の入る移住定住支援センターは古民家を改修して設置。町の支援を受けながら運営するカフェも併設。移住体験会では、敢えて厳しい冬を体験してもらっている。
- ・商店減少を受け、町で土地と建物を整備、生協とファミリーマートで包括連携協定を締結し、コインランドリーを併設した店舗をテナントとして誘致。
- ・そのほか、にぎわい拠点施設として、ガソリンスタンド、「七ヶ宿まちづくり（株）」の運営する多目的交流施設「Book & Cafe こ・らっしえ」、入浴施設「wood & Spa や・すまっしえ」、道の駅も整備。
- ・地域内の交通ネットワークは、民間路線撤退後、役場をハブとした町営バスを運行していたが、にぎわい拠点をハブに変更。



※出典：H28地域活性化ガイドブック～小さな拠点＋ネットワークによる地域活性化～（一社）地域活性化センター

※出典：七ヶ宿まちづくりホームページ

コンパクト・ヴィレッジ（小さな拠点）取組事例（3）

■北海道下川町 <人口2,787人 面積664km²>

○エリア地図（GoogleMap）



○取組概要 <集住化、自然エネルギーの活用>

- ・一の橋集落を自立型コミュニティ再興のモデルに位置付け、様々な生活支援サービスの実施と、集住化住宅の建設構想を策定。
- ・H25には内閣府の補助を受けて、超高齢化に対応するエネルギー自給型の集住化エリア「一の橋バイオビレッジ」をオープン。長屋風の外廊下でつながり、コミュニケーションが生まれやすい環境を創出。各住戸はバリアフリーやプライバシー等に配慮した1LDKから3LDKの間取りで、給湯や暖房は木質バイオマスボイラによる地域熱供給システムを採用。
- ・エリアには、住まいに必要な住民センターや郵便局、地域おこし協力隊の運営する「駅カフェ」を整備。
- ・バイオマス熱エネルギーを活かしたシイタケ栽培において、集落内の雇用だけでなく、民間企業の研究施設の誘致も成功し、新たな雇用も創出。
- ・別の集落とNPO地域おこし協力隊が連携し、高齢者等の買い物困難な住民への買い物支援サービスとして移動販売車サービス「シモカワゴン」を実施。
- ・町のコミュニティバスは、民間輸送業者が運行。運行のない路線をカバーする予約型乗り合いタクシーも運行。



※出典：H28地域活性化ガイドブック～小さな拠点＋ネットワークによる地域活性化～（一社）地域活性化センター

コンパクト・ヴィレッジ（小さな拠点）取組事例（4）

■山梨県上野原市 <人口21,012人 面積170km²>（西原地域人口473人）

○エリア地図（GoogleMap）



○取組概要 <既存施設の活用、地域ニーズに合わせた高齢者支援サービス>

- ・「羽置の里びりゅう館」は、上野原市の北端の山間地域である西原地域に、H13に農水省中山間地域農村活性化事業により、都市住民との交流の場・活性化の拠点として建設。一方で、H20には売上が当初の半分に落ち込み赤字に陥っていた。
- ・H22に、地域経済の振興と雇用創出、来訪・移住の推進を図るため、NPOさいはらが設立され、「びりゅう館」の運営を担当。
- ・H25には国交省「ちいさな拠点」のモニターに採択され、地域全世帯アンケートを踏まえて、地域のための生活サービス機能の充実を図るため、高齢者支援サービスを実施。
- ・主な取り組みとして、元気いきいき教室（介護予防サービス）、地域内循環交通の運行、配食サービスを展開。
- ・介護予防サービスとして、運動機能や口腔機能の向上、栄養改善指導、カラオケなどのレクも取り入れ、介護予防だけでなく高齢者の交流の場としても機能を果たしている。
- ・そのほか、NPOにより、半農半Xの暮らしの提案、空き家マッチングバスツアー、子育て世代マッチングバスツアー等を実施。



羽置の里びりゅう館



元気いきいき教室

※出典：H28地域活性化ガイドブック～小さな拠点＋ネットワークによる地域活性化～（一社）地域活性化センター

【資料 5】

今後の進め方について(案)

1. 今後の進め方について

○委員会の進め方

第3回、第4回	中心地域整備計画に関する基本的な整理
第5回、第6回	中心地域整備計画に関する各エリアの具体化
第7回、第8回	中心地域整備計画に関する合意形成

○委員会での協議内容

現状認識と大きな方向性の確認
財政・防災・法令などの制約条件の明確化
ワークショップでの住民意見の共有
部会設置で専門性を強化
多角的評価の枠組み設定(重要性・緊急性・財政面・実現可能性・防災面)
エリア案(霞地区、生山地区)の集中検討、コンセプトの確定
住民説明会(全体1回 + 生山、霞それぞれで1回)
住民意見の収集・整理
答申案への反映検討
最終確認・答申

2. 部会の設置

【目的】

専門的な議論を深め、委員会での検討を充実させるため

【体制】

委員会委員(事務局:役場担当課)
分野別の専門部会を設置

【役場担当課の役割】

- ①. 情報の提供
各分野の現状データ・制約事項の共有
法令・制度面での実現可能性の検証
- ②. 関係機関との調整
委員会と現場の連携強化
他部署との調整事項の確認

3. エリア検討の進め方

【対象エリア】

エリア案：霞地区（旧霞・北の原エリア）、生山地区（旧大田原・生山エリア）

評価項目（案）	評価の視点（案）
重要性	地域の将来にとっての必要性、住民ニーズの高さ、地域課題解決
緊急性	早期対応の必要性、現状の課題の深刻度、他事業との関連性
財政面	概算事業費、財源確保の可能性、維持管理コスト、費用対効果
実現可能性	法令・制度上の制約、用地確保の難易度、技術的実現性
実施主体	実施主体の明確化
その他	防災面、交通面、集約化の可能性

4. 住民説明会

○令和8年5月から6月ころに開催予定

- ・日南町全域を対象として住民説明会1回
（日南町役場又は日南町総合文化センターで開催）
- ・霞エリア（霞自治会）での説明会1回実施
- ・生山エリア（生山自治会）での説明会1回実施

⇒霞、生山エリア在住の人にとっては、生活スタイルや今まで以上に人の流れが変わることによる居住環境の変化が想定されるため、単独での開催を検討

5. 答申

令和8年11月末までに、委員会として答申を日南町長へ行う。

今後の進め方について(スケジュール) (案)

開催回	開催時期	委員会議事内容
3	R7.10	現状の共通理解、進め方と大きな方向性の合意
4	R7.12	エリア検討の前提条件(財政面・緊急度・重要度・防災・制約事項)の共通認識 ワークショップの結果共有 ※部会の設定
部会の開催(R8.1～R8.3)		
5	R8.3	エリア案(霞地区(旧霞・北の原エリア)・生山地区(旧大田原・生山エリア)) 検討(財政面・緊急度・重要度・防災・制約事項)
6	R8.5	住民説明会の準備／エリア案の積み残し確認、整理/ 中心地域全域にかかわる事項の検討
住民説明会(全体説明1回 生山1回 霞1回) R8.5～R8.8		
7	R8.9	エリア①②について住民意見の反映／答申案の作成
8	R8.11	答申案確認 答申

「日南町中心地域整備検討委員会」メンバー

	分 野	所 属 ・ 役 職		氏 名
1	有識者	鳥取大学	特任教授	日 置 佳 之
2	〃	明治大学	准教授	片 野 洋 平
3	〃	シティラボ東京 合同会社マチトワ	コミュニケーター共同代表	西 昭 太 朗
4	地元自治会	生山自治会	会長	伊 藤 政 美
5	〃	霞自治会	会長	長 尾 春 彦
6	地域団体代表	日南町自治協議会	会長	松 田 正
7	町民代表			糸 田 川 啓
8	〃			山 脇 亜 紀
9	〃			中 村 建 治
10	商 工	日南町商工会	会長	福 田 一 哉
11	〃	日南町商工会青年部	部長	久 代 善 平
12	産 業	日南町森林組合	組合長	木 村 実 次
13	福 祉	日南福祉会	理事長	坪 倉 孔 喜
14	〃	日南町老人クラブ連合会	会長	大 塚 武 史
15	交 通	(株)共立ソリューションズ 山陰支店	支店長	高 原 志 郎
16	〃	日南交通(有)		西 谷 直 文
17	教育・子育て	日南小中学校PTA	会長	井 上 慈 子
18	〃	こども園保護者会	会長	飯 塚 展
19	〃			中 田 望
20	金 融	(株)山陰合同銀行生山支店	支店長	原 田 直 樹
21	〃	(株)鳥取銀行生山支店	支店長	岩 本 桂
22	〃	鳥取農業協同組合日南支所	支所長	大 塚 玲 子
		(代理)鳥取農業協同組合日南支所	整備工場所長	松 浦 真 一
23	行政	鳥取県西部総合事務所米子県土整備部局維持管理課	課長補佐	鈴 木 陽 子
24	〃	鳥取県西部総合事務所日野振興センター日野県土整備局 維持管理課	参事	岡 田 雅 美
25	〃	日南町	副町長	角 井 学

＜オブザーバー＞

区 分	所 属 ・ 役 職		氏 名
鳥取県	危機管理部 危機管理政策課	参事	大 谷 武 彦
鳥取県	西部総合事務所日野振興センター日野振興局地域振興課地域振興担当	係長	高 梨 祐 太